

5. 国保財政の状況【保険料率を据え置いた場合の将来推計】

■ 標準保険料について

令和5年度は確定値。令和6年度以降の標準保険料については、①納付金について、平成30年から令和5年度までの医療分・支援分・介護分の伸び率の平均値を用いて令和6年度以降の納付金を推計し、②令和5年度の標準保険料に推計した納付金の伸び率を乗じたうえで、被保数の減少率を除して算出した。

なお、納付金の医療分についてのみ、医療費の高い年齢層の人数が減少するため、令和8年度以降の伸び率は2.1%と抑えめにみた。

■ 1人当たりの赤字額について

● 令和5年度は実質赤字を被保数で除したものの。

● 令和6年度以降は、標準保険料との乖離(F)から3,402円（令和5年度の一人当たりの標準保険料との乖離額から一人当たりの赤字額を引いた額）を引いたもの。

■ その他について

● 所得の伸び、診療報酬の改定、制度改正など正確な見込みが困難なものは、考慮していない。

	R5予算	R6 (推計)	R7 (推計)	R8 (推計)	R9 (推計)	R10 (推計)	R11 (推計)	R12 (推計)
被保数 (A) 単位 (人)	79,663	77,418	75,619	74,601	74,552	75,300	76,463	78,620
納付金額 (B) 単位 (千円)	11,463,924	11,630,968	11,864,152	12,082,596	12,467,709	13,005,702	13,642,813	14,494,372
1人当たり納付金額 (C) = (B) / (A) 単位 (円)	143,905	150,235	156,893	161,964	167,236	172,719	178,423	184,359
標準保険料 (D) = 前年数値 × (C) の伸び率 単位 (円)	128,884	134,553	140,516	145,057	149,779	154,690	159,799	165,115
1人当たり保険料 (E) 単位 (円)	101,745	101,745	101,745	101,745	101,745	101,745	101,745	101,745
標準保険料との乖離 (F) = (D) - (E)	27,139	32,808	38,771	43,312	48,034	52,945	58,054	63,370
1人当たり赤字額 (G) = (F) - 3,402 単位 (円)	23,737	29,406	35,369	39,910	44,632	49,543	54,652	59,968
実質赤字 (H) = (A) × (G) 単位 (千円)	1,890,986	2,276,585	2,674,606	2,977,340	3,327,401	3,730,581	4,178,865	4,714,720
一般財源による基金積立額 単位 (千円) ※翌年度の実質赤字額と同額	2,276,585	2,674,606	2,977,340	3,327,401	3,730,581	4,178,865	4,714,720	5,365,363

※数字は表章単位未満を処理しているため、内訳と合計とは必ずしも一致しない。

※黄色で反転させている部分（一般財源投入額）の7年合計額は、23,880,098千円（1年平均3,411,443千円）
※黄色で反転させている部分の当初4年合計額は、11,255,932千円（1年平均2,813,983千円）